

# 子宮けいがん予防ワクチンをご存知ですか？

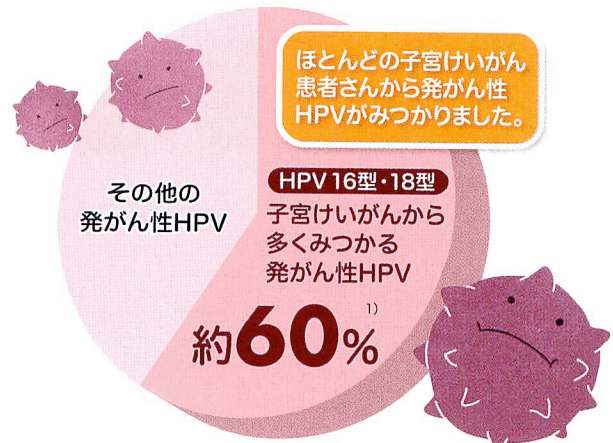
— 子宮けいがんはワクチンと検診で予防できます —



## 子宮けいがんは、ウイルスが原因！

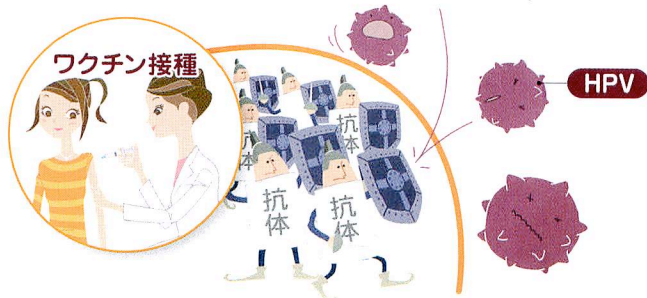
子宮けいがんは、発がん性ヒトパピローマウイルス(HPV)に感染することでかかる病気だといわれています。発がん性HPVは、特別な人だけが感染するのではなく、だれでも感染するありふれたウイルスです。ただし、感染したからといって必ずがんになるわけではなく、子宮けいがんになるのは感染した人のうちの1%未満であると考えられています。発がん性HPVのうち、子宮けいがんから多くみつけるタイプはHPV 16型と18型です。

(日本人子宮けいがん患者からみつける発がん性HPV)



1) Onuki M et al.: Cancer Sci 100(7):1312-1316, 2009

(子宮けいがん予防ワクチンの効果)



ワクチンを接種すると、抗体ができます。抗体は、ウイルスと戦って、ウイルスの感染を防ぎます。



## HPV 16型と18型の感染予防はワクチンで

子宮けいがん予防ワクチンは、HPV 16型と18型の2つのタイプの発がん性HPVの感染を防ぐことができます。ただし、その他の発がん性HPVの感染は予防できませんし、すでに感染しているウイルスをなくしたり、がんになるのを遅らせたり、子宮けいがんをなおしたりすることはできません。



## 定期的に子宮けいがん検診を受けましょう

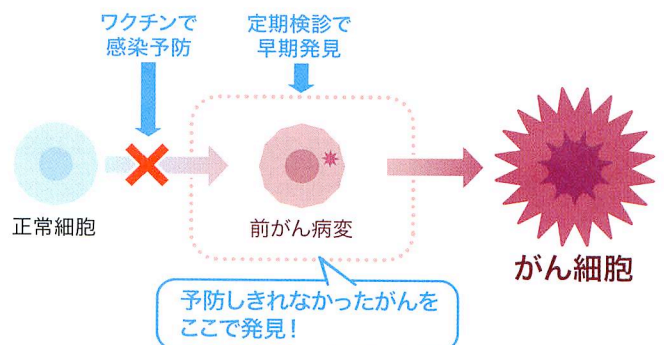
ワクチンで防ぎきれなかったがんを早くみつけて治療するためには、子宮けいがん検診が必要です。子宮けいがんは、がんになるまでに長い時間がかかるため、早くみつければ、がんになる前になおすことができます。

ワクチンの接種と検診\*で、子宮けいがんからより確実にあなたの体を守りましょう。

\*市町村が実施する公的子宮けいがん検診は、20歳以上を対象として2年に1回の受診間隔で実施されます。詳しくは各自自治体にお問い合わせください。

\*10代の方は公的な検診制度はありません。気になることがありましたら、ワクチンの接種を受けた医療機関にご相談ください。

(ワクチンと検診による子宮けいがん予防)



\*前がん病変とは、がんになる前の異常な細胞のことです。

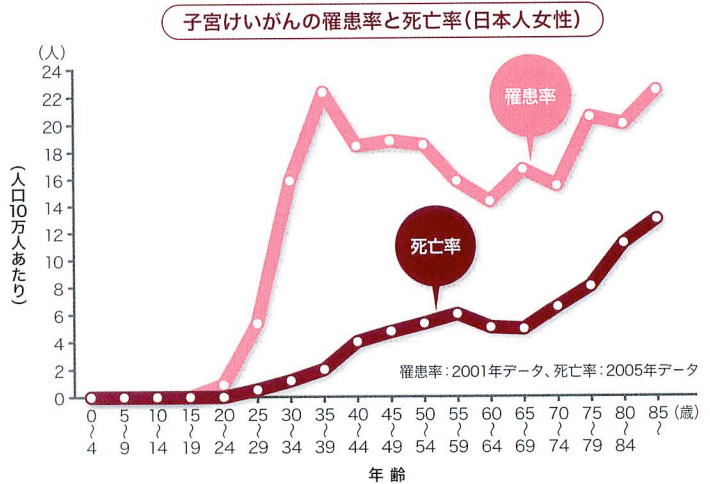
20歳になったら、定期的に子宮けいがん検診を受けましょう!

# Q&A もっと知りたい、子宮けいがんのこと



## Q どのくらいの方が子宮けいがんにかかっているのですか？

**A** 日本では、1年間に約15,000人の女性が子宮けいがんにかかり、約3,500人が亡くなっているといわれています\*。最近では特に、20～30代の若い女性で子宮けいがんの患者さんが急増しています。  
\*2008年のデータ

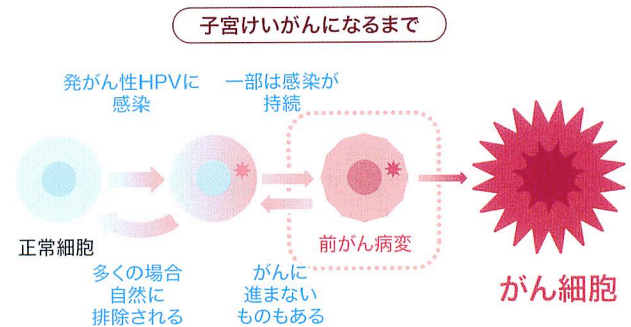


国立がんセンターがん対策情報センター、人口動態統計(厚生労働省大臣官房統計情報部編)

## Q 性交渉の経験がある場合は、ワクチンを接種しても効果は期待できませんか？

**A** ほとんどの女性が一生に一度は発がん性HPVに感染するといわれていますが、ほとんどの場合は自然に排除されます。しかし、このウイルスは何度も繰り返し感染することがありますので、性交渉の経験がある場合でもワクチンを接種して次の感染を防ぐことが大切です。

\*ただし、このワクチンには接種前に感染している発がん性HPVを排除したり、すでに発症している子宮けいがんや前がん病変を治療する効果はありません。



## Q 子宮けいがん予防ワクチンは、何歳で接種すればよいのですか？

**A** 子宮けいがん予防ワクチンの接種対象は10歳以上の女性です。性交渉を開始する前の年齢で接種するのが最も効果的であると考えられますが、発がん性HPVに感染したとしても多くの場合は免疫により排除されるため、次の感染予防という点から、成人女性でも接種意義は十分あると考えられます。特に、45歳までに接種することが推奨されています<sup>1)</sup>。



1) 社団法人 日本産婦人科医学会、子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)接種の手引き[平成22年3月]